

難防除雑草「ナガエツルノゲイトウ」分布拡大中

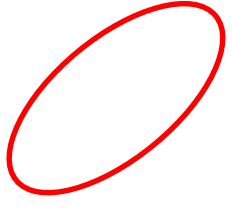
～早期発見・早期駆除を！～

(令和6年9月改訂)

ナガエツルノゲイトウは定着すると駆除は非常に困難なので、未侵入の水田では早期発見と早期駆除が重要になります。種子繁殖はせず、茎葉で増殖して群落化する特徴があります。草姿や生育の特徴を理解し、畦畔、用排水路及び水田の水口を巡回して早期発見に努めましょう。

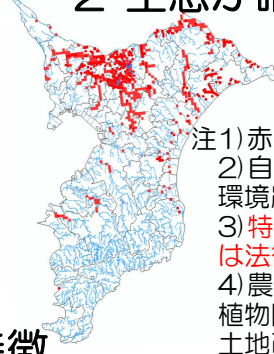
1 水稲に与える被害

水田に侵入すると繁茂により減収するとともに、収穫時期には稲に覆い被さり倒伏を助長し、さらにコンバインの詰まり等収穫の作業性が低下します。



稲に覆い被さり収穫困難

2 生息が確認された地域

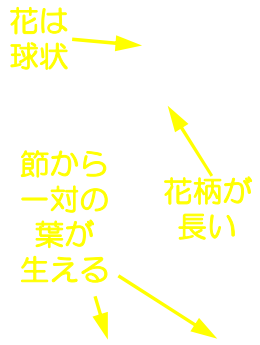


近年、栗山川から九十九里地域、また、小櫃川、小糸川水系に分布を広げています

- 注1) 赤点が生息確認地点
- 2) 自然保護課、中央博物館、耕地課、環境農業推進課の調査結果より作成
- 3) 特定外来生物なので持ち出しや栽培は法律で禁止されています
- 4) 農業用排水施設における外来水生植物防除事業については市町村及び土地改良区にお問い合わせください

3 ナガエツルノゲイトウの草姿の特徴

(1) 草姿 (形態)



群落状に固まって生育

ちぎれやすく用排水中を移動

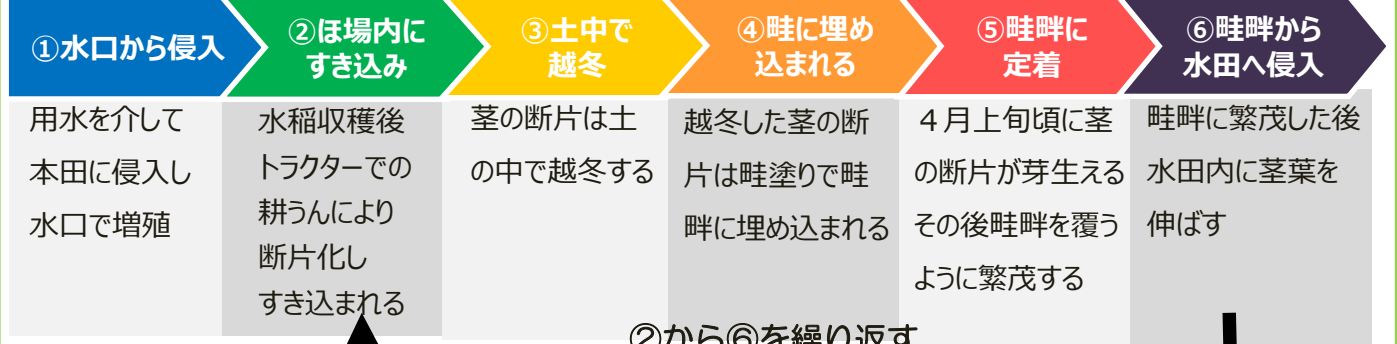
(2) 用排水路で繁殖



水路で群落となる

一面に広がり水路をふさぎます

4 水田における増殖と定着



②から⑥を繰り返す
畦畔の繁茂を放置すると土中深くにはびこり、駆除は難しくなる



① 水口から侵入

③土中で越冬した茎断片



⑤畦畔に埋め込まれた断片が芽生える(4月上旬)



⑥ 畦畔から水田内へ侵入(6月～8月)

上記の他、農機や長靴による侵入、田面での越冬・定着も起こり得ます
具体的な防除対策は本資料の裏面に記載しています(裏面に続く)

5 刈払い機等による畦畔機械除草は行わない

刈払い機によって断片化した茎葉は水田内や排水路に飛散し、発生場所が拡大します。また、刈ってもすぐに再生するので、刈払いは畦畔での繁茂を助長します。**防除は除草剤を活用しましょう。**

6 侵入防止及び除草剤による防除対策

(1) 未侵入水田における侵入防止対策

水口（給水栓等）に網を設置し、茎葉の流入を防ぎます（右写真）。農機に付着して拡散するので、発生が無い水田から耕うんし、よく洗浄しましょう。



(2) 侵入極初期の防除方法

水田内の水口等の発生には、水稻栽培期間にはロイアント乳剤（表2）、水稻収穫後はナガエツルノゲイトウの茎葉が展開した時期～降霜により枯れる前までにラウンドアップマックスロードを散布します（表2）。畦畔に発生した時はラウンドアップマックスロードを散布し駆除を目指します（表1）。

(3) 畦畔及び水田で繁茂し、定着している場合の防除方法

1) 畦畔の防除

代かき前及び水稻収穫後にラウンドアップマックスロードを、中干し開始後にザクサ液剤を散布し、7月上旬にロイアント乳剤を畦畔上及び畦畔から水田に侵入するナガエツルノゲイトウに散布します（図1及び表1）。崩れやすい畦畔では、水田入水前（3月下旬）のカソロン粒剤6.7散布に変えます。

図1 畦畔に発生したナガエツルノゲイトウの除草効果が期待される防除体系

栽培暦 →	移植		中干し		出穂		収穫	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	3月下旬 カソロン 粒剤6.7 (畦畔崩壊 しやすい場合)	4月中旬 又は ラウンドアップ マックスロード		6月上～中旬 ザクサ液剤	6月下旬～7月上旬 ロイアント乳剤 ・収穫前45日まで ・ナガエツルノゲイトウの 草丈35cmまで			9月下旬～10月上旬 ラウンドアップ マックスロード

2) 水田内の体系防除

水田内で発生が認められるときは、表2の除草剤を図2のように組み合わせた体系防除を実施します。

図2 水田内に発生したナガエツルノゲイトウの防除体系

栽培暦 →	移植		中干し	
	4月	5月	6月	
体系防除A (散粒機及び 大型噴霧器使用)	田植同時～移植後7日 バッチリLX 1キロ粒剤		移植後約40日 ロイアント 乳剤 ・落水又はごく浅く湛水 ・ナガエツルノゲイトウの 草丈35cmまで	
体系防除B (散粒機使用)	田植同時～移植直後 ピラクロン 1キロ粒剤		移植後約15日 ウィードコア 1キロ粒剤 ・ナガエツルノゲイトウの 草丈5cmまで	



体系防除Bと慣行防除の畝間の残草
注) 実線丸がナガエツルノゲイトウ、
点線丸がイボクサ

(注) 発生量が多い場合は、稲刈り後からナガエツルノゲイトウが枯れる前にラウンドアップマックスロードを散布

(4) 本資料で紹介した除草剤一覧

表1 水田畦畔で使用する除草剤の使用法

作物名	除草剤名	使用時期	本剤の使用回数	10a当たり使用量	使用方法
水田作物(水田畦畔)	カソロン粒剤6.7	秋冬期～春期 (雑草発生前～発生始期)	1回	4～6kg	全面土壌散布
	ラウンドアップマックスロード	収穫前日まで (雑草生育期)	3回以内	200～1000ml (希釈水量 50～100%) (少量25～50%)	雑草茎葉散布
	ザクサ液剤	収穫7日前まで (雑草生育期)	2回以内	500～1000ml (希釈水量 100～150%)	雑草茎葉散布
	ロイアント乳剤	収穫45日前まで (雑草生育期)	2回以内	200ml (希釈水量 25～100%)	雑草茎葉散布

表2 水田内で使用する除草剤の使用法

作物名	除草剤名	使用時期	本剤の使用回数	10a当たり使用量	使用方法
移植水稲	ピラクロン1キロ粒剤	移植時	1回	1kg	田植同時散布機で施用
		移植後～移植7日前又は移植直後～ノビエ1.5葉期(ただし、移植後30日まで)			湛水散布又は無人航空機による散布
	バッチリLX1キロ粒剤	移植時	1回	1kg	田植同時散布機で施用 湛水散布又は無人航空機による散布
	ウィードコア1キロ粒剤	移植後～ノビエ2.5葉期(ただし、移植後30日まで)	2回以内	1kg	湛水散布又は無人航空機による散布
水田作物(水田刈跡)	ロイアント乳剤	移植後7日～ノビエ4葉期(ただし、収穫60日前まで)	2回以内	200ml (希釈水量 50～100%) (少量5～50%)	湛水散布又はごく浅く湛水して散布
	ラウンドアップマックスロード	雑草生育期	1回	500～1000ml (希釈水量 50～100%) (少量5～50%)	雑草茎葉散布

(注) ラウンドアップマックスロードは耕起前(雑草生育期)にも2回以内で使用できます(使用方法はラベルの表示を確認)

農業使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農業使用基準を守って使用してください

本資料に係る研究は農林水産省委託プロジェクト研究「農業被害をもたらし侵略的外来種の管理技術の開発」JPJ0079666の補助を受けて行った

千葉県農林水産技術会議 (問い合わせ先: 各農業事務所改良普及課)